

【短報】岩手県におけるチョウカイクロマメゲンゴロウの記録

チョウカイクロマメゲンゴロウ *Platambus ikedai* (Nillson, 1996) は、これまで北海道、本州（山形県、福島県）で記録されている（森・北山, 2002; Okada, 2010; 吉井ほか, 2015）。筆者らは岩手県から本種を採集したので県下初記録として記録する。

1♂, 岩手県宮古市江繋, 2. IX. 2015, 佐野真吾採集・保管（図1）。

本種が採集された場所に近い所では、同属で近種のクロマメゲンゴロウ *Platambus stygius* (Régimbart, 1899) およびホソクロマメゲンゴロウ



図1. チョウカイクロマメゲンゴロウ。

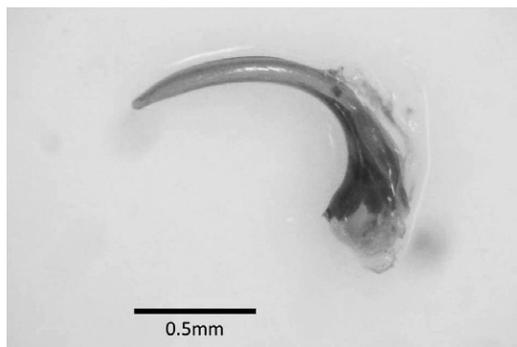


図2. チョウカイクロマメゲンゴロウの雄交尾器中央片。



図3. チョウカイクロマメゲンゴロウが採集された水辺。

Platambus optatus (Sharp, 1884) も採集されており、本種の同定には誤同定がないように雄交尾器中央片の確認を行った。森・北山（2002）によれば、本種の雄交尾器中央片はクロマメゲンゴロウやホソクロマメゲンゴロウに似るが、前記2種に見られる剛毛はほとんど無いことで見分けられるとされる。前述のような特徴は、本種の雄交尾器中央片からも確認された（図2）。

本種が採集されたのは、標高約 500 m 地点を流れる川の支流であった。吉井ほか（2015）が記録した福島県の例では、湿地の中を流れる清流で確認したとされるが、今回筆者らが採集した場所も川の流れが淀みとなり周りには植物が繁茂した湿地状の水辺であった（図3）。当地ではモンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873) とチャイロシマチビゲンゴロウ *Nebrioporus anchoralis* (Sharp, 1884) も得られた。

末筆ながら、本種の同定の確認にご協力いただいた東海大学教養学部人間環境学科の北野忠教授および、山形県と福島県に生息する本種の生息環境について情報を提供して下さったアクアマリンふくしまの平澤桂氏に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ, pp. 121-122. 文一総合出版, 東京.
- Okada, R., 2010. New records of two species of *Platambus optatus* species-group (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, 38(1): 27-28.
- 吉井重幸・平澤 桂・三田村敏正, 2015. 福島県産ゲンゴロウ目録 50 種. *ふくしまの虫*, (33): 20-29.

(佐野真吾・吉崎真司 224-8551 横浜市都筑区
牛久保西 3-3-1 東京都市大学)

【短報】名古屋市民からの同定依頼により持ち込まれたヨコミゾドロムシ長翅型

ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp は、本州、四国、九州の、河川や湧水で出来た池などに生息する稀な種である。従来、別種と考えられていたホソヨコミゾドロムシ *Leptelmis parallela* Nomura は、Hayashi and Yoshitomi (2014) により本種の長翅型であることが判明している。また、本種は環境省（編）（2015）において、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

筆者は、2013年の8月23日に名古屋市緑区在住の80代女性のベッド周りから発生している昆虫の同定を、名古屋市緑保健所からの依頼を受け

て行った。衛生研究所には4頭の甲虫が持ち込まれ、そのうち3頭はジンサンシバンムシであったが、残る1頭はヨコミゾドロムシの長翅型であった。本種はこれまで名古屋市における記録が無いと思われるので、ここに記録しておく。

1 ex., 愛知県名古屋市緑区東神の倉, 採集日は不明, 上手雄貴保管。

今回ヨコミゾドロムシが得られた住宅の近くには扇川が流れているが、水質はかなり悪化しており、発生源が本河川なのかは不明である。いずれ扇川における調査も行いたいと考えている。

末筆ながら、今回の事例に関して様々な情報を頂いた名古屋市緑保健所生活環境課環境衛生担当の方々、および名古屋市衛生研究所の横井寛昭氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

Hayashi, M. and H. Yoshitomi, 2014. Taxonomic treatments of two Japanese elm mid beetles, *Stenelmis vulgaris* Nomura and *Leptelmis gracilis* Sharp (Coleoptera: Elmidae), with descriptions of their larvae. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20(2): 235–244.

環境省(編), 2015. Red Data Book 2014, 5 昆虫類 日本の絶滅のおそれのある野生生物. xxxix + 509 pp. ぎょうせい, 東京.

(上手雄貴 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町
1-11 名古屋市衛生研究所)

【短報】伊豆諸島青ヶ島からのキンケツツヒメゾウムシの記録

キンケツツヒメゾウムシ *Phaenomerus foveipennis* (Morimoto, 1961) は、本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬、琉球、台湾から生息情報のあるゾウムシ科の小甲虫である(森本, 1984; 小島・森本, 2004)。

伊豆諸島からは三宅島、御蔵島、八丈島から記録されている(Morimoto & Miyakawa, 1985; Kojima & Zhang, 2013)。

伊豆諸島青ヶ島のゾウムシ相については、衣笠(1981)やMorimoto and Miyakawa (1985), 最近ではKojima (2011)によって報告されているものの本種の記録は見当たらない。筆者は同島において本種を確認しているので報告する。

1♂3♀, 東京都青ヶ島村池之沢, 2. VII. 2014, 筆者採集, 保管。

青ヶ島初記録。耕作地の縁に生えていたホルトノキが地上1mほどの高さの株を残して伐採されており、本種は切り株の樹皮上に開いたキクイム

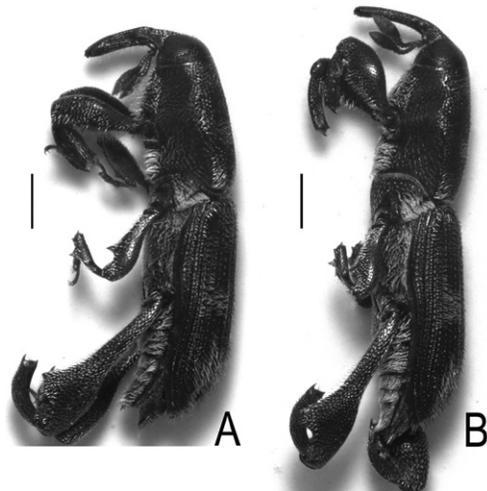


図1. 青ヶ島産キンケツツヒメゾウムシ. A, ♂ (左) ; B, ♀ (スケールはともに0.5 mm) .



図2. A, 畑の縁のホルトノキの切り株; B, ホルトノキの樹皮上に開いた穿孔 (青ヶ島村) .

シのものと思われる小孔を出入りしていた。

引用文献

衣笠恵士, 1981. 青ヶ島で採集したゾウムシ類. 月刊むし, (130): 15–16.

Kojima, H., 2011. Records of some weevils new to the fauna of Hachijō-jima and Aogashima Islands, the Izu Islands, Japan. Elytra, New series, 1: 341–342.

Kojima, H. and C. Zhang, 2013. Weevils newly recorded confirmed from Mikura-jima Is., the Izu Islands, Japan. Elytra, New series, 3: 179–181.

小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本産ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. 九州大学総合研究博物館研究報告, (2): 33–147.

Morimoto, K., 1961. On new Curculionidae from Japan (Coleoptera). Kontyu, 29(1): 22–27.

森本 桂, 1984. ゾウムシ科. 林 匡夫・森本 桂・木元新作 編著, 原色日本甲虫図鑑 (IV), 269–345 pp., 保育社.

Morimoto, K. and S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan (Coleoptera). Mushi, 50(3): 19–85.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)